ee (ユンスー・リー) 筆者とYoonsoo L ヴァージニア大学経済学部 かを実証的・理論的に によってどう変化する P A R T IV り、ここでは1972 (年次工業統計)であ 向山 スが改善する、という る事業所の平均と比較 長期的なパフォーマン で継続的に操業してい 方、参入率は大きく異 低い事業所が多く退出 なることがわかる。 、それにより経済の 不況期には生産性の

であまり変わらない一 業所の平均的な規模

動が、景気循環の局面 of Manufactures 循環」では、事業所レ とめた論文「事業所の 参入・退出行動と景気 、ルでの参入・退出行 ©Annual Survey とする米国センサス局 は、米国製造業を対象 用いるデータセット タを用いる

西江大学校副教授がま

分析する。実証分析に

年から97年までのデー

議論がある。

0.85 0.65

不況

0.70

不況 3.4%

ansing effect of

によって大きく影響さ

recessions)」と呼れていることがわか

しかしながら、モデ

かった。

もしもこのコストの

が重要であることがわ

ごとにどう変化するか ストが景気循環の局面

(参入した事業所の

まず、表1は参入率

小況期に減少する事業所の参入

この効果は、

の浄化効果(the cle じく、参入行動が景気

率・退出率のときと同

したものである。参入

ある。数字は同じ産業

の変動をうまく再現で

きるものの、表2・表

たものが表2・表3で

計した生産性を計算し

的にモデルを解いた結

たのは退出行動よりも よって大きく影響され

参入行動の方であった

合わせて推計し、定量

ータを米国のデータに

業において景気循環に

ある。モデルのパラメ この時期の米国の製造

果、標準的なモデルは

表1の参入率・退出率

ということである。マ

用いる生産関数から推 (雇用者数)と労働を

すことはできなかっ

の特徴の違いを生み出

3のような参入事業所

況期と

不況期で大きく

参入事業所の特徴も好

みならず、ミクロ的な クロ的に見た参入率の

には、参入に関わるコ

異なっている。理論的

わるコストが景気循環 の局面ごとに変化する ルを修正して参入に関

この論文ではさら

数を総事業所数で割

数を総事業所数で割 ったもの)と退出率 (退出した事業所の

0.69

好況 0.53

8.1%

いる。好況と不況は

る。ここではむしろ、

器造業の生産指数の

気循環の効果が表れて

動学モデルに景気循環

わかった。

的に再現できることが 表3のパターンも定量

る。景気循環の各局面

って正す余地が生じ

参入側のふるまいに景 モデルは標準的な企業

ったもの) を示して ないことを示してい

モデルを用いてデータ

と仮定すると、表2・

らば、それを政策によ

性によるものであるな 変化が何らかの非効率

の解釈を行っている。

に、動学的な一般均衡

データからは観察され 不況の浄化効果はこの ばれる。表1の結果は、

は好況時と不況時と

さらに参入・退出事

ックを導入したもので を生むマクロ的なショ

からわかったことは、

まとめると、データ

性質については更なる

における参入コストの

研究が必要である。

oれている。 退出率 **风長率によって区別**

好況

参入率と退出率

退出率